

ジャガイモと映画 (33)

<利活用 (4)>

Web ジャガイモ博物館館長

あさ ま かず お
浅間 和夫

111. 刑事コロンボ：指輪の爪あと

(原題：Columbo:DeathLendsaHand)

1972年、アメリカのテレビ映画。監督：バーナード・L・コワルスキー。

ロサンゼルス市警察殺人課の警察官コロンボを主人公としたサスペンス・テレビ映画全69話中、はじめの頃の第4話である。

大手新聞社の会長ケニカット（レイ・ミランド）は、年下の妻レノアの浮気調査を、探偵のブリマー（ロバート・カルプ）に頼む。浮気的事实をつかんだブリマーは、それを依頼主に隠し、レノアを脅迫する。すべて夫に話すと反抗された彼は、レノアを殴打して殺害する。そしていったん埋葬される。初動捜査において、残った指輪の爪あとに、コロンボ（ピーター・フォーク）の目がとまる。そこで、犯人は被害者の傷の位置から左利きであり、バックハンドの平手打ちをし、激昂しやすい人物による突発的な犯行である、と的確に推理する。

免許更新に行ったコロンボは、コンタクトレンズが取れると視力に差がでることを知り、コンタクトレンズの在処を捜査に活かすことを思いつく。すなわち、殴られた殺人現場か彼女の遺体を運んだ車の中に落としたのではないかと犯人と推定されるブリマーにヒントを与えて、行動の変化を掴もうとする。時折コロンボは、捜査協力を

申し出た犯人にすべての手がかりを与えて、追い込んでいく手法をとる。この映画でも、最後には犯人相手に大胆な罠を仕掛けてみる。それを知らずにあわてたブリマーは現場にコンタクトレンズを探しにいったり、エンジンがからず廃車にした車内を探りに深夜出かけることになる。それを予測してコロンボたち警察と、会長ケニカットが待ち構えているのだった・・・

そこでコロンボが飄々として腕白時代の子供のころの話をする。

「彼がここにコンタクトを探しに来たことが何もかもを雄弁に語っているんです。あたしの育ったところは、修理工場やら駐車場がたくさんあるところでした。ね、気取った車を見つけるとよくイタズラしたもんですよ。ジャガイモ持ってってね。それ



写真1 コロンボ少年のイタズラ

を排気管に突っ込むんです（写真：イメージ）。そうすりゃ、別に害はないけど、エンジンはかからないんで。まあそんな男が今は刑事をやっているんですけどネ」

事件解決のために犯人の車にやってしまったのだ。日本なら、やらせとか器物破損になる。そして「ホシにこのこと教えてやりたい。」と。なかなか鮮やかなラストであった。一見して隙のない完全犯罪と思わせておいて、僅かな手がかりから、犯人を突き止めるいつもの手法に感服しつつ、ストーリーを楽しむことができた。

シリーズで、コロンボのプロフィールがいろいろ判ってくる。小学校の教室で、前列の気になる女の子を何とか振り向かせようと小さな消しゴムか何かを弾いてやったりしていたが、この少年期のイタズラ好きに加え、レッスンプロのケン・アーチャーにゴルフの上手いことを見せつけたりした。

蛇足になるが、アメリカでつくられたテレビドラマ『CSI:科学捜査班』（2000～2015年）の第9話「裏切りの逃亡者」ではコンビニを襲撃したりカジノで仲間を撃つシーンがあるが、その時はなんとジャガイモがサイレンサー代わりに活用されていた。

112. 旅するダンボール

2018年、邦画。監督：岡島龍介。

島津冬樹、作成当時世界が注目を集める話題の“段ボールアーティスト”である。本人は自身を段ボールピッカーとも呼ぶ。この映画は、彼の活動に迫るドキュメンタリー作品である。

役目を終えると捨てられてしまう段ボール。しかし市場などでよく見てみると美味

しく、上手に表現していたり、野暮なものだったり豊富なデザインがあり、底がこすれて長旅を想像できたり、国ごとの文字の違いなど、奥深い点がたくさんある。

映画は、ある日東京で、島津が可愛いらしいキャラクターの徳之島産のジャガイモの段ボール（写真）を見つめる。その源流を辿って行く旅の途中で出会う、この“段ボールと人たちの温かい交流”を3年間にわたり追った映画である。そして段ボールが導く人との縁や、ゴミと呼ばれるものを使用価値のあるものへと昇華させる活動の裏側に迫ってくれる。（なお、段ボール自体にも各種でん粉が使われている。）



写真2 ジャガイモの段ボール箱

今まで世界30ヶ国の街角で必要性がないと捨てられた段ボールを拾ってきて、デザイン、機能性を兼ね備えた段ボール財布へと甦らせた作品例も見られた。小さな日本の片隅で島津さんが生み出す段ボール財布は世界中を旅し、リサイクルや再利用といった概念のさらに先を行くアップサイクルの可能性として受け入れられているが、島津さんの思いはひたすら付加価値をつけて新しい商品をつくること（アップサイクル）とは無関係に、ただ段ボールが好きで

多様性や魅力の虜になった、純粹さそのものであった。

113. X-MEN：アポカリプス

(原題：X-MEN：Apocalypse)

2016年、アメリカ映画。監督：ブライアン・シンガー。

人気の高い長編アクション・コミックを映画化したものである。紀元前3600年、最強のミュータント（突然変異体）であるアポカリプスはその強大な能力によって人々から崇拝され、古代エジプトを支配していた。彼は自分が老いると他のミュータントの体に自分の魂を移して長い間生き長らえてきた。しかしヒーリング・ファクターの能力をもつミュータントの体に魂を移す儀式を行おうとしたところ、彼に反感を持つ者たちの反乱に遭う。4人の従者が命を投げうって彼を守るものの彼はピラミッドに生き埋めになり、長い間の眠りにつくこととなる。1983年になり、あるカルト集団が

蘇えらせてしまう。それにマーベルヒーローたちのX-MENチームが立ち向かう姿を描くものである。

映画は過去・未来を飛び回るが、ジャガイモは出てこない。筆者が取り上げたのはここに出てくるセクシー女性サイロックを務めたアメリカの女優リサ・オリヴィア・マン（LisaOliviaMunn,1980年～、写真）についてふれたいためである。彼女は子供のころ日本で育ち、モデルとして活躍したこともある。あるテレビの特集で山梨県桐原村（ゆずりはらむら、現上野原市）の住民たちを描いており、そこではガンなどの疾病にかかる人が少なく、長寿者が多く、年を取っても肌がツヤツヤでシワの数も少ないことを知る。これは、ストレス少なく、ジャガイモなどの野菜を多くとる生活の結果ではないかと知り、実践してみたと言う。その結果を35歳のころ（2016年）、1年前の写真と並べてインスタグラムに写真をアップして、見た目の変化に貢献したもののひとつに日本のジャガイモがあると書き込んでいた。すなわち、眉の形を変え、シミを薄くする化粧品を使い続け、顔のシワの予防対策にヒアルロン酸が豊富な日本のジャガイモを食べ続けている、と。ただし油で揚げるのはよくないとも言っている。筆者としては、そのジャガイモの産地や品種名、どのような形態で入手したのかなど知りたいところである。



写真3 ジャガイモで美しくなったというリサ・オリヴィア・マン